

石狩の樹



教育情報の共有による「学校－家庭－地域」の連携強化 ～全局体制で挑むオンラインを活用した情報発信～

～はじめに～

令和元年に発生した新型コロナウイルス感染症の急拡大により、社会の在り方は激変した。人と人との接触は徹底的に避けられ、対話は必要最低限にするよう求められた。それにより、情報を共有する機会は失われ、多くの人が社会的な孤立感を感じるようになってしまった。

コロナ禍は長く続き、令和2年に入ってもなお、以前のような学習会や研修会の開催はためられる状況であった。石狩管内も例外ではなく、保護者を対象とした研修会の中止が相次ぎ、子どもたちが健やかに成長するために必要な情報を保護者が知る機会が失われたままとなっていた。このような背景の中で、令和3年度、社会教育指導班が、コロナ禍における家庭教育支援の在り方に対する1つの対策として、誰でもどこでも受講することができるオンライン子育て応援学習会「いしかり局ちゃんねる」をスタート実施し、保護者の学習機会の創出に取り組んだ。

この取組は、社会の求めることに対応したものであり、視聴者からも非常に好評であったことから、令和4年度は「石狩 Web チャンネル」と名称を改め、家庭教育だけでなく、教育情報や大人から子どもたちへの応援メッセージ、子どもたちが現状や夢を語り合う「子ども未来会議」の実施等、「情報発信」に主眼を置き、内容をスケールアップして石狩教育局全職員で取り組むこととした。

「石狩 Web チャンネル」の実施概要

1 実施期間

令和4年8月から令和5年3月

2 実施方法

- ・オンライン Web 会議システム Zoom（オンライン講座）
- ・Youtube（オンデマンド視聴）
- ・Twitter（告知・広報）

3 対象

- ・学校教職員、保護者、地域住民、小中高生 等

4 予算

- ・教育政策課が行う「令和4年度教育局による政策プレゼンテーション事業」に採択されたため、その予算を活用。総額30万円（機材購入、講師謝金、取材旅費等）。

5 実施状況

チャンネル・スタディ【様々なテーマによるオンライン学習会】				
8/24	自分を大切に 心との向き合い方	ストレスの原因、対策、 消法等	北海道医療センター 医長 古高 陽一 氏	154名参加
9/28	おうちで考える 『もしも』の備え	防災力を高める「対話」、 地震への対応演習等	札幌管区気象台 調査官 谷内 一弘 氏	77名参加
10/27	みんなでやろう！ アダプテッド・スポーツ	アダプテッド・スポーツ（障がい 者スポーツ）の実際等	北海道アダプテッド・スポーツ 代表 齊藤 雄大 氏	63名参加
11/16	自分を守るスマホと の上手な付き合い方	スマホ依存にならないよ うにするための方法等	北翔大学 教授 飯田 昭人 氏	89名参加
12/20	けっきょく、多様 性ってなんだろう	福祉の観点から見た「多様 性」とは等	日本福祉大学 准教授 添田 正揮 氏	95名参加
チャンネル・5（Five）【ネット上5分で伝える教育情報】				
	健康・安全	熱中症対策、防災、体の仕 組み、自転車の乗り方等	大塚製薬、道危機対策課、 札幌ヤクルト等	63本
	学習習慣	図書館の裏側、勉強の苦 手克服等	道立図書館、練成会	
	ふるさと教育	アイヌ文化の紹介、北海 道の魅力、芸術等	道アイヌ協会、北海道大 学、札幌青少年科学館等	
	道立高校の紹介	石狩管内の道立高校、特別 支援学校の紹介	各校の生徒・教師	
	道立施設の紹介	道博物館、道文学館、近代 美術館等	各施設職員	
スマイル・キャンペーン【大人から子どもたちへの応援メッセージ】				
応援メッセージ			オリンピック、札幌よしも と所属芸人、企業社長	10組
子ども未来会議【子ども同士がつながる話し合い】				
10/22	第1回	「いじめのない学校」への提案	小 20名、中 14名、 高 24名 計 58名	
3/27	第2回	「将来の夢」について語ろう	小 9名、中 10名、 高 15名 計 34名	

参加者・視聴者の声（一部抜粋）

自分の子どもも、参加した子どもたちのように誠実で素敵に育ってほしい。
（中学生の保護者）

大人の人の応援を聴いて、心が軽くなった。
（中学生）

子どもたちが互いに意見を素直に表し交流するが頼もしい。
（高校生の保護者）

日常のコミュニケーションが防災につながることなど、家族で楽しく学ぶ機会となった。
（中学生）



PTA 研修や学校だよりに活用する。
（教員）

子どもとの対話の大切さを確認した。
（小学生の保護者）

今日のいろいろな話し合い中で、相手の立場に立って考えること、自分が嫌なことは相手にしないことといった、とても大事なところを話し合われていたのが、とてもうれしく感じた。みなさんの「想い」がどんどん広がっていくと、本当に「いじめ」のない、誰もが安心して学べる学校になっていくと感じた。
（北海道札幌あいの里高等支援学校 西牧 孝徳 校長先生）

自分が当たり前だと思っていることが、他人には違うこともあることが分かった。
（小学生）

子どもとよく話し合い、ルールを決め、評価をし、ルールを見直していくことが必要だと感じた。
（中学生の保護者）

毎日の自分の生活に直結する悩み、その解決のヒントを得た。
（高校生）

学校の授業で扱えないテーマで、とてもありがたい。保護者に伝えたい。
（教員）

家族で楽しく学ぶ機会になった。
（中学生の保護者）

子どもの生活習慣や家庭学習の時間などを見直すきっかけになった。
（中学生の保護者）

【チャンネル・スタディ】	【チャンネル・5 (Five)】	【スマイル・キャンペーン】
<p>満足 大変満足 99.6%</p>	動画再生回数 5,373 回 動画再生回数 3,779 回	<p>再生回数 1,502 回</p>

道教委幹部からのコメント

(教育局による政策プレゼンテーション実施報告会[R5. 3. 13])

■学校教育監

- 道立高等学校を紹介している取り組みが良い。今後、アンビシャススクールの取り組みなども交えて戦略的に紹介してほしい。
- 生徒が学校生活で感じていることや学校の取り組みなどもより身近に感じるような内容を検討してもらえるとよい。

■総務政策局長

- デジタルというトレンドを取り入れた、タイムリーな事業であると思う。
- デジタルを活用した取り組みの1つのアイデアから次のアイデアが生まれ、広がり期待できる。今回の取り組みの中で出された局職員のアイデアが別の活動にも活用できるのではないかな。

■教育長

- 視聴数を伸ばすことは、簡単なことではない。With コロナにおいても、情報発信のプラットフォームとして息長く取り組んでほしい。過度に焦らず、持続、定着をめざしてもらいたい。
- 学校に発信する情報についてのリクエストを募る、高校生の発表の場として提供することも良いのではない。そのことにより、関係する保護者が視聴することで、今まで視聴したことのない保護者に広がるのが期待できる。
- 良い取組なので、長く続けてもらいたい。

成果・課題・今後の方向性

○成果

- ・地域住民への教育の意義や成果、課題等の理解促進が図られた。
- ・「地域総がかりで子どもを育てること」の重要性の理解が進んだ。
- ・局職員全員で取り組んだことにより、個としてのスキルアップ、組織力の向上が図られた。

▼課題

- ・さらに教育情報を広く提供するためには、異なる方策を考える必要がある。
- ・生徒や保護者の声を聞き、ニーズを集めた上での企画になっていなかった。

🔗今後の方向性

- ・オンラインのみの情報発信だった。今後は、作成したコンテンツをPTAや教職員、地域住民を対象とした研修会に直接持ち込み、活用・放送することで、より多くの人に情報を届けられるよう、全局体制で進めていく。
- ・今のコンテンツを活用しつつ、生徒や保護者の声を集め、局の若手職員の考えを取り入れながら、新しいコンテンツを作っていく。

令和4年度 石狩教育局教育支援課社会教育指導班

久末 考 勇 石狩教育局教育支援課社会教育指導班主査
小田島 美 雪 石狩教育局教育支援課社会教育主事

編集 石狩教育局教育支援課社会教育指導班
発行 石狩管内教育委員会協議会
《事務局》北海道教育庁石狩教育局内

発行日 令和5年3月